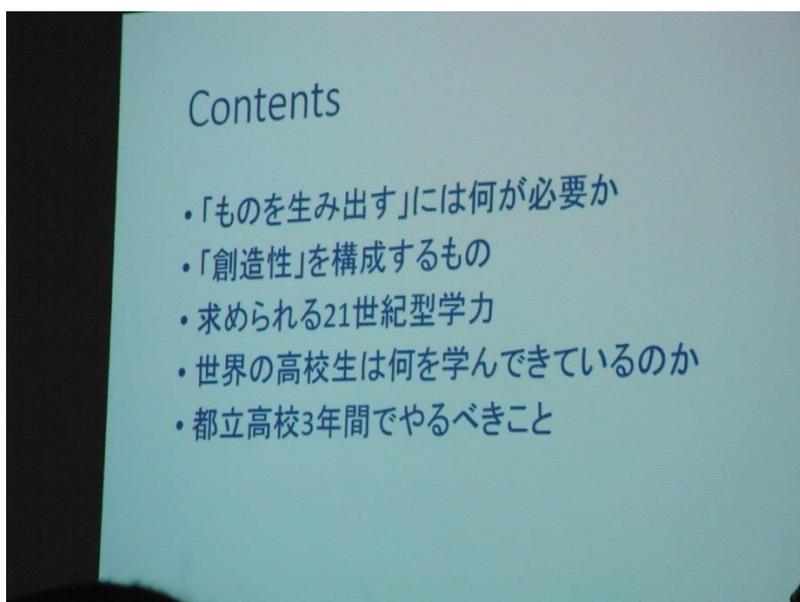


2017年度 北海道大学キャンパスツアー報告

8月21日(月) 10時に羽田空港に集合し、11時の飛行機で北海道に向かいました。今年度のツアー参加者は、1年生15名、2年生4名、3年生2名の合計21名でした。新千歳空港に到着後、札幌に移動。やっと北大に到着しました。いよいよツアーの開始です。最初は、北大正門前での写真です。

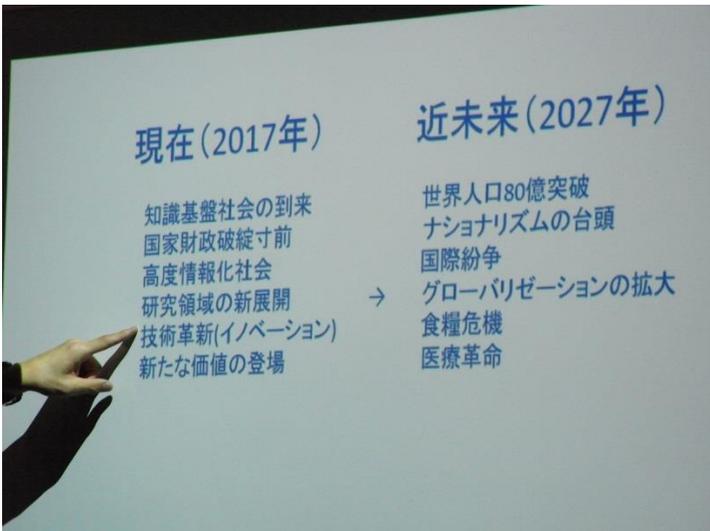


最初に訪れたのは、鈴木誠北海道大学高等教育推進機構アドミッションセンター教授でした。早速、次の内容で、講義が始まりました。

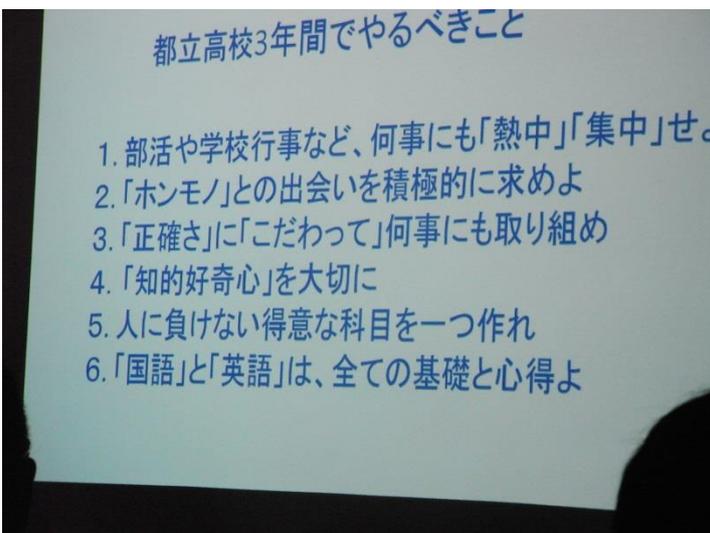




講義の風景です。



これからの学生が迎える社会です。



生徒達へのメッセージです。

鈴木先生の講義の後、低温科学研究所へ向かいました。ここでは南極大陸で採取された氷が保存されていて、それを材料にいろいろな研究が行われています。氷に閉じ込められた空気を調べることにより、過去の地球の大気組成などの地球環境を知ることができるのです。氷の標本は南極大陸の内陸部で採取します。昭和基地から時速8kmの雪上車で片道3週間。採集した氷は、南極観測船「しらせ」に移されて日本に持ち帰られ、そこから北海道大学と立川にある国立極地研究所で保存されます。北大の低温科学研究所では、その氷の標本を -50°C で保存しています。 -50°C の世界を体験し、美しい氷の結晶の観察を行いました。写真は -50°C の世界から無事帰ってきた生徒達と低温科学研究所前のものです。



低温科学研究所を後にして、立高卒の北大生の先輩達の話聞くために、南に向かって歩け歩け状態が続きます。北大生には自転車が必要だと痛感しました。途中のクラーク像の前で笑顔の記念撮影、ですが、実際はだいぶ疲れています。クラーク会館の食堂の一部を占有し、2名の先輩(女子)から北大生活についての情報をいただきました。



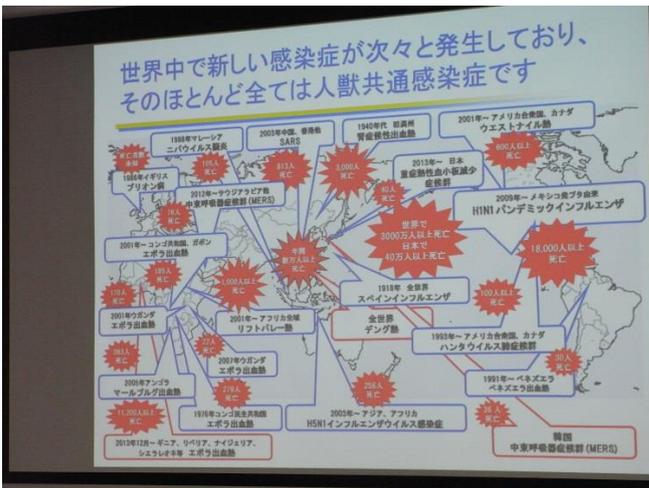
その後、ホテルに移動して、各自夕食をとり、1日目終了しました。

8月22日 2日目はあいにくの雨です。それもけっこう降っていました。朝食後、8時30分にホテルを出て、北大の中をひたすら歩き、鈴木先生の研究棟に到着。その後、雨の中を人獣共通感染症リサーチセンターまで送っていただきました。センターで待っていてくれたのは、中島知恵准教授。立高の卒業生です。びしょ濡れの靴を脱ぎ、早速講義開始です。

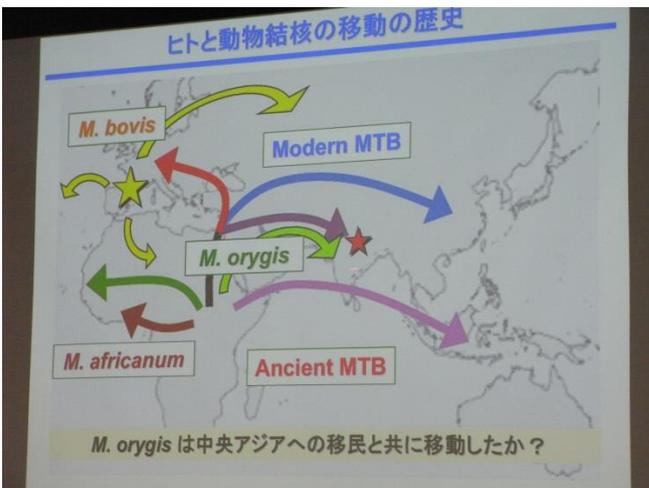
テーマは人獣共通感染症リサーチセンターの概要、そして中島先生のご専門の「結核」です。現在知られている感染症の多くが他の動物とヒトと共通のものであること、その対策をいろいろな観点から行っていることなどのお話の後、人獣共通感染症リサーチセンターの意義をわかりやすく解説していただきました。また、ご専門の結核に関しても、「人類由来の病原菌が他の動物に感染していたこと」「結核が治りにくいのはマクロファージなどの食細胞の中で消化されないようにしてじっと隠れているからだ」「結核菌がインドサイなどの絶滅危惧動物にとっても危険な病原菌となっている」などという興味深いお話を優しく講義していただきました。



講義の様子



講義の内容 1



講義の内容 2



中島先生を囲んで

人獣共通感染症リサーチセンターを出て、雨の中をまたまたひたすら歩きました。次の目的地は北海道大学総合博物館です。約束の時間を15分も遅れて11時45分にやっと到着しました。そこで優しい笑顔と一緒に待っていてくれたのは、博物館の大原教授でした。大原教授に案内されて、1階から順に展示を見ることができました。各フロアー、ブースで何を目的とした展示なのか、どの部分に注目するとおもしろいのかなど詳しい解説がなされました。その一部を移したものが次の写真です。



そしていよいよ、通常は絶対に立ち入ることのできない博物館のバックヤードに案内されました。大

原教授のご専門である昆虫の標本貯蔵庫に招待されました。大量の標本の中から、各昆虫のタイプ標本や大原教授の研究材料である「エンマムシ」の標本など貴重な標本や資料を間近に見ることができました。



予定時間を30分以上も過ぎるほど丁寧な対応をしていただき、ツアー参加者一同大いに感謝したところです。

研究室や施設の訪問を終え、一次昼食をとるために解散。引率者は懐かしい雰囲気の漂う学食で昼食をとりました。

14時40分に札幌駅に集合して、新千歳空港へ向かい、17時の飛行機で全員無事に東京に戻ってきました。今年のツアーは2日目の悪天候はあったものの、多くの大学の先生や関係者に恵まれ、なかなか実りの多いものだったと感じています。

(文責 中村厚彦)